

高専八代「ロボコン大賞」



全国高等専門学校ロボットコンテストで最高賞の「ロボコン大賞」を受賞したロボコン部メンバーと制作した2台のバリスタ「八代市」

全国大会 2種のプログラム 評価

熊本高専八代キャンパス（八代市）のロボコン部のチームが、「全国高等専門学校ロボットコンテスト2018」で、優れたロボットに贈られる最高賞の「ロボコン大賞」を受賞した。

全国高等専門学校連合会などが毎年開き、31回目。ただだった。

全国大会は11月下旬、東京であり、地区代表26チームがトーナメントで戦った。今回の競技は、水などで

規定の重さにしたペットボトルを立たせる「ボトルフリップ」。自作のロボット2台を使って高さや面積が異なる八つの台座に向かって投げ、立たせた本数や速さを競う。

高専八代のメンバーは15年生10人。自動制御と手動操縦の2台のロボット「BARISTA（バリスタ）」で臨んだ。2台が合体しアームを伸ばして得点の高い台座を狙ったり、2台が別々に動いてスピードを競ったりできる。ルールに応じて2種類のプログラ

ムを用意したのは同チームだけだった。九州・沖縄地区大会ではロボットの技術力が評価され代表4校に選出。全国大会は準決勝で敗れたが、圧倒的な得点力やアイデア、技術力などが総合的に評価され、ロボコン大賞に輝いた。

リーダーの湯野友貴さん（5年）は「全ルールに適応しようとした努力が評価されてうれしい。今後の学生の励みになる」。山下徹顧問（43）は「新技術を取り入れて挑戦した結果。下級生たちには次の大会への糧にしてほしい」と話した。チームは17日に県庁を訪ね、蒲島郁夫知事に大賞受賞を報告する。

（中村悠）